

つくしだより



平成30年5月号

東京都精神保健福祉家族会連合会

(東京つくし会)

〒156-0056 世田谷区八幡山

3-33-1 林マンション301

TEL/FAX:03-3304-1108

<http://www.ttsukushi.sakura.ne.jp/>

発行者 眞壁 博美

2018.5.15 第334号

今年も要望活動が始まりました

単会の声を5月中に!

都連副会長 本田 道子

昨年度は「マル障」を中心とした要望活動を皆様と共に精力的に行いました。ご協力をいただきありがとうございました。ございました。

どんな活動をしたのか少し振り返ってみましょう。

○「マル障の会」を作った

・つくし会・当事者・他の団体とも手をつなぐことができた。

○請願書への署名活動

・個人でのがんばり。
・新宿西口で寒風の中の街頭署名。
・各単会として積極的な取り組み。

・青木聖久先生の全国への呼びかけ。
・都議会の全会派を訪問し精神障がいの実態を訴え賛同を得た。

○各区市町村議会への働きかけ

・都議会へ意見書を出すように陳情した。

○都福祉保健局へ

・数回にわたる要望活動を行った。

○当事者の生活実態調査を行う。

・家族会を通じて当事者への調査。

・実態調査書報告書の普及。

○「実現のための都民集会」を行う。

・高田馬場でパレードをした。

・NHK TV 首都圏ニュースで放送された。

○都議会を傍聴した。

○実際に都の条例に「及び精神障害者」の八文字が加えられ施行規則も整うのを確認した。

実にたくさんさんの活動を行いましたね。みなさま、おつかれさまでした。

私たちつくし会理事も頑張ったと思います。その結果やっと今年度の予算化になりました。

しかし、申請できるのは1級だけ。しかも来年の1月からの実施です。まだまだ2級も3級も、と思います。

そこで今年度の要望活動についてです。

すでに各家族会の代表の方のお手元に平成31年度の要望書をたたき台としてお届けいたしました。

マル障についてはまず実態の経過を見る必要があります。

今年度は家族にとって早急に整備が必要な課題を重点に何点か掲げました。

予算もそれほどかからないもので、既に都として実施されている制度の

充実を求めるものもあります。

このほかにも、昨年度以前からの懸案事項なども取り上げていただきますので、各単会で検討していただきたいと思えます。

そのうえで5月末までに回答をいただきたいと思います。

もとより要望はこれだけではありません。

それぞれの家族会で今まさに重要とされていることについて教えてください。

提出していただいた要望について再調整をして今年度の要望として東京都に要望書を提出し都議会各会派へ要望実現のための協力をお願いしていきます。

要望実現はとても大変なことです。ですが、声を出さない限り実現もしません。

「東京つくし会」みんなの要望として皆様と力強く要望していきます。

もちろん「東京つくし会」の活動は要望だけではありません。しっかりと足元を見ながら地道な家族会活動も続けてゆきます。

今年度も皆様と一緒に頑張りますよう。



都精民協の新体制と活動方針について

都連会長 眞壁 博美

4月25日(水)に、平成30年度第1回運営委員会が開催され、新しい組織改革がなされました。この2年間、都精民協(東京都精神保健福祉民間団体協議会)の活動のあり方や組織体制について議論し合い、新しい会則をつくり、加盟団体の役割分担を話し合ってきました。都精民協の代表は、長いこと「地域活動支援センターあさやけ」の伊藤善尚さんにお願ひしてきましたが、役員も一新し、代表に、東京つくし会の眞壁博美がなりました。副代表には、渡辺智生氏(ホーム連)、高梨文雄氏(とせいれん)、丹菊敏貴氏(とうきよう会議)、木村和広氏(事業所の会)が選出されました。代表が交代したことで、都精民協の事務所は、東京つくし会となりました。会計係はつくし会の安藤理事が担当することになりました。

組織体制で大きく変わったことは、昨年から試行的に行っていました。構成する団体で、役割分担をしっかりと行い、一部の人に過重な負担がいかないようにしました。また、昨年からメーリングリストをつくり、情報をできるだけタイムリーに共有するようにしてきました。

今年度の活動は、大きく6つあります。

① 関係団体との情報交換を行うために運営

委員会、役員会を各6回ずつ開催する。
② 結成25年記念誌の発行。
③ 東京都へ要望書を出し、懇談会を開催する。

④ 都民啓発講演会(6月20日、2月20日)
普及啓発のための印刷物を発行する。

⑤ 「道しるべ」の発行・配布とニュースレターの発行・配布。
また、東社協、東京都などの各委員会、会議に出席し、関係団体等との連携を図ることとしました。

東京つくし会創立50周年記念誌

「東京つくし会

50年の軌跡とこれから」頒布案内



東京の家族会の50年(1968〜2018)の歴史を刻んだ価値ある1冊。とても貴重な冊子です。部数限定。

【内容の紹介】

●50周年記念座談会では長年家族会活動に携わってこられた家族会の皆様12名による創立当時の思い出や苦労話などを語って

ます●竹村堅次元烏山病院院長、高山秋雄元東京つくし会会長、服部百合子元東京つくし会理事にインタビュー●50年のあゆみでは野村忠良前東京つくし会会長がつくし会誕生の経緯と今後の推移を解りやすくまとめています●東京つくし会年表は小笠原勝二元東京つくし会理事が、1964年から2018年の出来事を1年ごとにまとめています。

講演会記録集

「その人らしさを大切にしたい訪問看護について考える」の

頒布案内

【内容】どこまで出来る当事者・家族支援について 看護現場からの報告をまとめたものです。



演者：(株)円グループ 原子英樹氏。

【頒布額及び申し込み方法】

記念誌…1冊1000円
講演会記録集…1冊2000円
送料…注文者の負担でお願いします。

申し込み先…東京つくし会

TEL・FAX03(3304)1108

「セサミ」訪問記

都連理事 鬼頭 博子

朝から夏日のような4月21日土曜日、目黒区の地域活動支援センター「セサミ」を訪ねました。「セサミ」の「家族のつどい」とは10年来のお付き合いがあり時々お邪魔させていただいています。施設長橋本さんの明るいい笑顔に迎えられ、恒例の体操と歌で体と心をほぐし家族会が始まります。体操は参加者一人一人が16カウント程度の体操を披露しながら進んでいきます。皆と同じじゃあしやうがないかと、私が披露したのはドスコイ！しこを踏んできました。最後のせり上がりはけっこう太もも内転筋がこたえます。

この日は家族4名スタッフ3名。アットホームな雰囲気の中、名前は？どこから来たの？今日の気分は？嬉しかったことは？と、全員順番に話すことが自己紹介となります。

その後は2人ペアとなり相手の話をじっくり聞き、自分のことも話の腰を折らずに聞いて貰うという、「セサミ」流オープンダイアログを体験したり、参加者の相談ごとを知恵を出し合い励ましたりと、充実の2時間は和やかな雰囲気の中あつという間に終了。参加費200円はその都度支払います。精神障害者の家族なら誰でもいつでも参加出来るので便利なシステムだと思いました。

「セサミ」では利用者との交流会や、「セ

サミ」以外の家族会との交流会も開かれます。私はだいたい前に雪谷家族会のメンバーを誘って参加したことがあります。その頃は目黒区にも家族会があったので、「セサミ」で「ひのき会」や「アリスの会」の方たちと交流させていただき、現在も繋がりを継続しています。

セサミ家族会は大田区の作業所見学（色えんぴつ）に続きグループホーム（ホームかまた）の見学をするそうです。地域を超えた支援者たちや家族の交流は、利用する障害者や家族は勿論、支援者たちにとってもお互いおおいに参考になると思うので今後も活発に広げていってほしいと思いました。

当事者語らいの場である府中梅の木会の

『いこいの部屋』事業の紹介

都連理事 小澤 輝江

府中梅の木会では、当事者の方のためのくつろぎの場であるオープンスペース「いこいの部屋」を運営しています。

府中梅の木会は、昭和43年（1968年）に設立されました。「いこいの部屋」の開設は平成12年（2000年）2月です。当事者の方が語らいの交流を通して自立し、自分らしい生き方や社会復帰を目指していく場です。発病のために社会復帰が困難になっている当事者の方の無念の想いを、この「いこい

の部屋」で仲間同士で語り合い、癒されるのは、やはりお互いが同じ試練をくぐり抜けた体験を持つからなのです。

当事者さんたちは実に和気あいあいとして「この場所に来るのが楽しみ」と、本当に喜々として自分らしさを取り戻しています。

スタッフは、家族会員とボランティアの方々が務め、傾聴を心がけています。

当事者さんと話をする「暖かい気持ちになる」とスタッフの皆さんが異口同音に言います。スタッフの皆さんが当事者の皆さんをお世話しているのではなく、反対に当事者さんの清らかな心から、素晴らしいプレゼントをいただいているのです。

■いこいの部屋の概要■

▽毎週水曜・土曜日13時～16時開所

▽会場 府中梅の木会事務所

▽年間実績（平成29年度）

実施回数101回 参加者実数34人

延参加者数432人



寄稿 「お花見ハイキング」

都連理事 安藤 万寿代

「狛江さつき会」では、年間行事に親睦ハイキングがあります。新年度さつき会そのの4月3日(火)に「片倉城址公園」(八王子市)・桜の花見とカタクリの花の群生地へのお手軽ハイキングに行きました。

狛江から町田へ行き、横浜線で片倉駅下車して、小高い山を目指して十分ほど歩き、入り口に着きました。

今年は桜も早く咲きましたので、カタクリの花も盛りは既に終わりましたが、なごりの花が数本咲いており綺麗です。桜の花吹雪の下で昼食になり、日頃の話題に花が咲きストレス解消となりました。

カタクリの花は、ユリ科で、紫・ピンク色の花が咲き、花言葉は嫉妬です。桜の花に嫉妬したかも知れませんが、高山植物ではないが、登山口でよく見かけ、山に春の訪れを告げる花です。

この公園ではなんとミズバショウも咲いており、感動しました。近郊にて春を満喫した楽しい一日でした。



講演会のお知らせ

- ☆6/9(土)入院と通院を上手に 講師:大泉病院社会医療部長 山澤 涼子氏
会場:新宿区立障害者福祉センター 主催:新宿フレンズ ☎03-3987-9788
- ☆6/20(水)精神障害者の雇用をより進めるために～「精神障害者の雇用義務化」の法改正に伴う企業からの相談事例を踏まえて 会場:世田谷区烏山区民会館1階ホール 入場無料 予約不要
講師:東京障害者職業センター 古野 素子氏 主催:東京つくし会 ☎03-3304-1108
- ☆6/30(土)地域で暮らすための「住まい」と「お金」～障害年金、生活保護を活用しながら～
講師:NPO法人 あおば福祉会 田中 直樹氏 田村 葉子氏
会場:区立総合福祉センターさくらぼーと3F研修室
主催:世田谷さくら会 ☎03-3308-1679

※参加申込み・お問合せは、主催者までお願いします。

☆賛助会費☆
平川病院
ありがとうございます。
10000円



編集後記

旅が好き。
それも一人旅ならなお良い。
世の中の全ての事をさらりと忘れて一人電車の窓から眺める外の景色はそれが何であれすばらしい。
東京駅や新宿駅から電車が動き出すそのひとときがたまらない。解放感でいっぱいになる。
職住接近で渋谷に住んでもう40年に近づいた。自宅の周りからはどんな自然が消えてゆく。反比例して私は緑や自然を求めて足は田舎へ、田舎へ。
電車の窓から遠くの山々を眺める、線路の脇にかわいい草花が咲いている。畑仕事に精を出している人がいる。ただそれだけでうれしい。
みんな今を精いっぱい生きている。人も自然も、小さな虫たちも。
旅先でエネルギーをもらってまた新宿へ帰ってくる。またいつもの日常が待っている。
この時だけはすこし悲しい。

都連理事 本田 道子



つくしだよりは赤い羽根共同募金の配分を受けて発行しています。